

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3072500477		
法人名	有限会社 グループホーム開門荘		
事業所名	グループホーム開門荘		
所在地	〒647-1211 和歌山県新宮市熊野川町日足752 (電話) 0735-44-0770		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	2007年10月6日	評価確定日	2007年11月12日

【情報提供票より】(平成19年 9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額1500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(110000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年 9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	5	名	
要介護3	2	名	要介護4	1	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	87 歳	最低	84 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神経内科熊の路クリニック、熊野川歯科診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームからは熊野の山稜が眺められて、みどり豊かな山間部の静かな立地条件の下、自然木を基調としたホームには落ち着いた趣が見られる。ホームの近隣には、さつき温泉もあり、入居者は温水プールなどの社会資源を利用することができる。施設周辺には四季折々の花が植えられており、広いウッドデッキには近隣の方の持ち寄った鉢植えなども飾られ、入居者・職員により細やかに手入れされている。家庭菜園で取れた作物を食卓に出して入居者・職員と一緒に調理するなど、家庭的な雰囲気の中で、入居者は各々穏やかにゆったりと自分のペースで過ごし、自分の時間を阻害される事なく、自然に共同生活における役割を担っている。職員の支援により入居者の尊厳を大切にす姿勢がうかがわれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価・外部評価の意義を十分理解しており、前回の評価を生かし、リビングの間仕切り・ネームプレートの材質変更などを行い、よりよい環境づくりに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に添って、改善して、よりよいサービスの向上のため、努力している姿勢が自己評価への取り組みの中に見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営会議はこれまでに1回開催されている。地域の住民・家族・役所関係者で、認知症の理解を含めて地域の一員としての意見交換を行った。出された意見をもとに地域との繋がりを強めるために、地域の住民を対象にした催しなどを計画している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に1回家族への便りを、入居者一人ひとりの各担当者が状態を丁寧に書いて報告している。適宜、状態変更時電話対応している。定期的連絡の折にでも、意見が聞けるような体制を整備して記録の充実を図ることが望ましい。意見を反映し、更なるサービスの向上につなげる事を期待する。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治体・老人会との交流を深め、地域・老人会の行事には、積極的に参加して、地域の人々との交流に努めている。四季折々の行事を盛り込んで、花見・敬老会には地域の人の参加も促している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「感謝と奉仕の精神」という理念を元に、事業所独自の理念を作り上げ、額に入れ玄関と居間の壁に掲げられている。	○	理念の中の「生活」という言葉の中には広い意味で、「家庭的な環境と地域住民との交流の元で」という地域密着サービスとしての理念も含まれているが、更に地域との交流を意識した形の理念を作り上げることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングと月に1回の職場会議で、理念に基づき日々の暮らしを支援しているか検討し、職員全員で理念を共有し実践していくように働きかけている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治体・老人会との交流を深め、地域・老人会の行事には、積極的に参加して、地域の人々との交流に努めている。四季折々の行事を盛り込んで、花見・敬老会には地域の人の参加も促している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価・外部評価の意義を十分理解しており、前回の評価を生かし、リビングの間仕切り・ネームプレートの材質変更などを行い、よりよい環境づくりに取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに1回開催されている。地域の住民・家族・役所関係者などの委員で開催され、認知症の理解を含め、地域の一員としてホームの運営について話し合い、それをもとに地域住民を対象とした集まりを計画するなど地域との繋がりを強めるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質の向上に向けて協力を求め、機会を見つけては市町村担当者・行政への働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回家族への便りを、入居者一人ひとりの各担当者が状態を丁寧に書いて報告している。適宜、状態変更時電話対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営適正委員会のパンフレットを置くなど、苦情を受け入れやすい体制にしているが、意見・不満・苦情を実際に受け入れた記録が見られない。	○	定期的連絡の折にでも、意見が聞けるような体制を整備して記録の充実を図ることが望ましい。意見を反映し、更なるサービスの向上につなげる事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代の場合は、入居者へのダメージを配慮して入居者の情報や仕事内容について交代職員同士がマンツーマンで引継ぎをしている。個別に引継ぎを念入りにする事でサービスの質の低下を防ぎ入居者へのダメージも少なくすんでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力、適正、本人のやる気に応じ研修会出席者を決めており、勤務の一環として研修への参加を促している。各々受けてきた研修を職員会議のときに伝達講習している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などに参加し勉強会や交流をおこなっている。相互訪問も行い、質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入居者・家族に見学してもらっている。入居まで連絡を密にして、家族の相談にも応じている。信頼関係の構築を図るため、入居者に一人のスタッフが個別に対応するようにしている。知人が職員の場合などには、その職員が担当するなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者からも学ぶ姿勢を職員全員に意識づけられている。花の手入れ・調理などの生活を共に行うなかで、入居者の意見を取り入れながら、お互いが支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りを十分に行うよう本人の思いや意向を把握している。センター方式を活用して本人の想いを日々の暮らしの中に繁栄できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介助の仕方・援助の仕方をスタッフ全体で見直し、本人や家族の要望を取り入れ、それぞれの意見を介護計画につなげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しを行っている。状態の変更時には家族と相談して計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現地点では特に事業所の多機能性を活かした支援は行われていないが、今後地域の住民を対象とした集まりなどを計画するなど、地域の要望にも応えて、入居者が地域の一員として受け入れられるように取り組んで行こうとしている。	○	地域の住民を対象とした集まりを計画中ということなので、今後の取り組みと成果に期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得て馴染みの医院に受診できるようにしている。本人の希望・緊急性も配慮して、希望の近隣の医院受診ができるように支援しているが協力してくれない医院もあり、遠方の協力医療機関まで受診しているのが現状である。	○	今後は地域・行政の協力を得て、近隣の医院にも協力体制を受けれるように働きかけを続けることが望ましい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のありかたについて家族と話し合っている。身体機能が衰えてもできるだけホームの生活を続けたいとの要望については、職員に看護師がいない事を家族に説明し、納得のうえで希望に添った支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部・内部研修によりプライバシーの確保の重要性を勉強すると共に、職員全員が日頃より、声かけ、排泄介助・入浴介助についても細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物、調理など、一人一人のペースに合わせ、支援している。散歩に出掛け、プールを利用するのを日課にしている入居者もいる。日々の過ごし方も個々に自由に過ごせるように支援している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が自然な形で一緒に準備・食事・片付けをしている。家庭菜園での収穫物も調理したり、入居者が自発的に動けるように支援している。各自の好みにより調味料を使えるように支援している。笑顔と和やかな会話から食事を楽しんでいる様子が伺われる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は夏は12時から16時、冬は温まってから眠れるように18時半から20時と決まっているが、その時間帯内であれば自由に入浴でき、毎日でも入浴できるよう支援している。浴槽は個人浴で一人ひとりがゆっくり入れるように配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の生活歴の聴き取りや、センター方式の内容を参考に、本人の趣味を生かし、園芸・絵画・手芸などの時間を共有できるようにしている。洗濯・掃除・調理等入居者のできる範囲で役割を果たせる支援を行っている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添い、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。夜間のみ玄関の施錠を行っている。見守り等安全面への配慮により、今まで徘徊等による問題は起こっていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火避難訓練は行っているが、防災訓練・地域への働きかけは、行っていない。	○	今後、地域の人々の協力を得られるよう働きかけていくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量のチェックを行い、一人一人の状態を注意しながら、不足分については、偏らないように補うように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花々が自然に生けられており、入居者の作品も所々に展示されて暖かい雰囲気になっている。広いガラス窓からの景観も良く、自然の光・外気が十分取り入れられるように工夫されており、天井の扇風機は室温を一定に保てるように静かに回っている。ゆったりしたソファ、テーブルの配置など、複数でのなごみの時間、また、一人での自由な時間も取れる空間の配慮がされてい		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を自由に使えるように、家族・入居者に説明しているが、開所時、県の指導により各居室に収納たんすを設置しているため、画一的な居室になりがちである。	○	画一的な居室になりがちなので、使い慣れたものや、好みのものを活かすスペースの工夫を期待したい。